

## 社会人対象に専門性を極める 大学院1年制コースを新設

学校法人昭和女子大学は、2021年度より大学院生活機構研究科の福祉社会研究専攻に「福祉共創マネジメントコース」「消費者志向経営コース」、生活文化研究専攻に「1年制コース」を新設予定です。

### 保育・福祉分野に特化した 経営人材育成

「福祉共創マネジメントコース」は、これから医療・福祉等に多様なニーズが増加することを受け、保育・福祉施設、保健医療・福祉経営者、管理者（リーダー）養成するための経営大学院です。

本コースは2つのプログラムを開設します。「保育・福祉施設経営大学院プログラム」では、保育や福祉分野に特化した専門的な経営人材を育成します。「保健医療・福祉経営大学院プログラム」では、マネジメント力などを高め保健医療や福祉の経営者、管理者を育成します。

### 消費者志向経営を学ぶ

「消費者志向経営コース」では、消費社会に



## 文化講座、オンラインで実施

2020年度女性教養講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止と学生の健康と安全を考慮し、オンラインで実施します。

文化研究講座についても同様にオンラインを活用した2つのプログラムを実施します。「[A]音楽・芸術分野」では、デジタルでの

音楽鑑賞の発展が社会でどのように受け止められているかを考察します。「[B]世界のミュージアム・ビジット」では、オンラインで美術鑑賞を行います。状況に応じて講座は変更になる場合があります。最新の情報は、UPSHOWAをご覧ください。

## 学部新設相次ぐ

2020年度より、これまで生活科学部の中にあつた環境デザイン学科が、環境デザイン学部として分離独立しました。「人・社会・環境」の課題解決していくために、デザインの切り口で広い視野を持ち、デザイン力とデジタル対応力を生かして社会貢献できる人材を育成します。

2021年4月には生活科学部が食健康科学部に名称変更し、管理栄養学科、健康デザイン学科、食安全マネジメント学科の3つの視点から、食の科学を通して人の体の「内側」からクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目的とした学びを追究します。



学報に掲載されている記事はWEBでも配信中  
学生記者たちが中心となって大学の魅力を  
他にもたくさん発信しています。



swu.ac.jp

twitter.com/swu\_official

facebook.com/ShowaJoshi/

instagram.com/insta\_swu/

## 2020年度 「科学研究費等助成事業」に 採択された研究

科研費  
KAKENHI

### ◎新規採択研究

#### 基礎研究(C)

- ・言語マノリテの医療保障のための患者の権利に関する比較的研究 — 森本 直子 准教授
- ・被虐待児とDV被害者を対象とした母子支援体制の評価基準の構築 — 野坂 洋子 助教
- ・認知症高齢者の自立生活支援をめざすヘルパー経験知の検証と活用 — 中矢 亜紀子 専任講師
- ・快楽性食欲との関係性からみた抑制機能の操作による摂食行動の変容可能性 — 山中 健太郎 教授
- ・食事栄養因子に基づくアラキドン酸代謝経路における統合オミクス解析法の確立 — 花香 博美 教授

#### 若手研究

- ・第二言語の文法知識を運用可能とするコミュニケーション文法練習方法の検証 — 大場 貴志 専任講師
- ・イノベーションの支援者と企業家の利害対立発生メカニズム・利害の経時的変化への注目 — 三浦 紗綾子 専任講師

### ◎継続研究

#### 基礎研究(B)

- ・放射光X線CTによる非破壊での日本刀の体系的な研究：作刀技術解明にむけて — 田中 眞奈子 准教授

#### 基礎研究(C)

- ・英語母語話者の物語コースに基づいた慣用語を中心とした絵本教材の作成と提供 — 金子 朝子 特任教授
- ・保育所における食事援助の質向上を目指す研修ツールの開発：多職種アプローチを通して — 遠藤 純子 専任講師
- ・異文化間コミュニケーションにおける共感：日本語母語話者と英語母語話者の会話の分析 — 山本 綾 准教授
- ・診療・介護・障害報酬に横断的かつ統合的な財務情報および非財務情報に関する調査研究 — 井出 健治郎 教授
- ・戦後日本における世俗の慰霊空間の研究 — 戸田 穰 専任講師
- ・谷文晁一門の研究—江戸後期の文人社会における交流を軸として — 鶴岡 明美 准教授
- ・ムルルニスマ絵画研究—ルシニョルとカザスを中心に — 木下 亮 教授
- ・古・中英語期における女性聖人伝の系譜研究：Aelfricのテクストと言語を中心に — 島崎 里子 准教授
- ・現代モンゴル語書きことばの形成 — 呼和巴特爾 教授
- ・教材開発を目指した高齢者介護施設における新人介護人材育成のプロセスの実態調査 — 大場 美和子 准教授
- ・「越境による共創」で創出する中等教育カリキュラム・オープンイノベーションの探求 — 緩利 誠 准教授
- ・基礎的な包丁操作スキルを習得させるためのバイオメカニクスの根拠と教示方法の明確化 — 秋山 久美子 教授
- ・自閉症スペクトラムの対人社会性の解明—主題統覚検査の物語反応と視覚運動から — 田中 奈緒子 教授
- ・クエン酸の疲労軽減効果の客観的評価とGADD34に着目した分子メカニズムの検証 — 渡辺 睦行 准教授
- ・近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程—学校外での教習活動に着目して — 早川 陽 准教授
- ・日本語における複合述部の統語分析 — 浅田 裕子 准教授
- ・知的障害者の中長期のキャリア形成が企業活動にもたらす効果 — 根本 治代 准教授
- ・中小食品製造企業における営業担当者の人材育成に関する研究 — 清野 誠喜 教授
- ・DOHaD概念に基づく次世代を担う女性の出生体重とその後の体格 — 小西 香苗 准教授
- ・食品中のニトロ化トリプトファン生成が生体へ及ぼす影響の解析 — 川崎 広明 専任講師

#### 若手研究

- ・戦後日本における「若者」を社会問題化する言説のエスノメソドロジー研究 — 小川 豊志 専任講師
- ・ベニコウジエキスの安全性評価：標準化および医薬品との相互作用を中心に検討 — 横谷 馨倫 助教
- ・貧困に起因する健康問題発症メカニズム解明とこども食堂を介した解決システム構築 — 黒谷 佳代 専任講師
- ・我が国の小・中学校におけるSTEM教育普及に向けたプログラム開発と人材育成 — 白敷 哲久 准教授

## 女性文化研究賞 受賞作決定

### 第12回昭和女子大学女性文化研究賞

#### 『EU 性差別禁止法理の展開』黒岩 容子氏に大賞

昭和女子大学は、「第12回昭和女子大学女性文化研究賞」大賞を、弁護士・早稲田大学比較法研究所招聘研究員の黒岩容子氏による「EU性差別禁止法理の展開：形式的平等から実質的平等へ、さらに次のステージへ」（日本評論社）へ贈呈することを決定しました。

昭和女子大学女性文化研究賞は、昭和女子大学女性文化研究所が主宰し、男女共同参画社会の推進と女性文化の振興に

資する本を顕彰しています。対象は、前年に刊行した単行本で、今回は35件の応募がありました。併せて、昭和女子大学関係者によって著された本や論文に対する「女性文化研究奨励賞」も実施しています。今回は、歌川光一 聖路加国際大学大学院看護学研究所准教授・昭和女子大学初等教育学科非常勤講師の「女子のたしなみと日本近代：音楽文化にみる「趣味」の受容」が受賞しました。



# 昭和学報

SHOWA GAKUHO

## 100周年を迎えて コロナの時代も学灯を受け継ぐ

理事長・総長

### 坂東 真理子

今年は本学創立100周年の記念すべき年ですが、思いがけない新型コロナウイルスの感染防止のため想定外の状況が続いています。卒業式は、式典は実施せず学科・専攻毎に学位記を授与。入学式はメッセージ動画を配信しました。4月24日からはすべての授業がオンラインになり前期末まで行います。うまくいかどうか心配でしたがすべての教員が事務局の助けを得て、お互いの経験を交換しながら、新しいスタイルの授業に取り組んでいます。やってみたら対面とは異なる新しいメリットを発見した、学生たちも熱心に聞き、課題・宿題も9割以上が提出してくる、学習効果は上がっている、という声も多数聞かれます。

一方2月から3月には中国、韓国、欧州各国への留学は中止。留学していた学生たちは全員帰国しました。帰国した留学生のほとんどはオンラインで留学先の授業を受け

ています。ポストンキャンパスは閉鎖され、4月から留学する予定だったビジネスデザイン学科の学生たちのポストン留学は延期となりました。9月から留学を予定していた英語コミュニケーション学科も東京でポストン教員のオンライン授業を受けることになります。

文化研究講座と女性教養講座はオンラインとなりました。

大学は少しでも学生たちを支援したいと学生たちがオンライン授業を受ける環境を整える奨励金の支給、経済環境が激変して勉学を継続できなくなっている学生への給付奨学生枠を増やすなど様々な取り組みをしています。

大学も教職員も精いっぱい対応していますが、学生の皆さんにもこうした思いがけない事態に遭遇して「なんでこんな目に合うのだ」「自分たちはついていない」と嘆くのではなく、この中で何をしなければならぬか、何ができるかを自分で考え対応しようと

呼びかけてきました。これからはどの職場でもオンラインの会議、事務処理が必要になりますから、それを経験するのは決して無駄ではありません。自分で予習復習して授業に臨むのもよいことです。ぜひこの機会を活用するようにしてほしいものです。

もちろんグローバル化を進めていた昭和女子大学にとって今回の状況をどう受け止め将来に生かしていくか、は大きな課題

です。昭和女子大学のユニークな取り組みである学業研修が本来の形で開催できないものとても残念なことです。昭和女子大学の良さを直接アピールするオープンキャンパスがバーチャル・オープンキャンパスにかわりませんが、多くの人に見てほしいです。



昭和女子大学の先哲は、震災、戦災、火災等の惨禍を生き抜き、学灯を受け継いできました。私たちはこのコロナ禍の中でもバトンと落とさず、次の世代にこの学園の灯を伝えるため力を合わせていきたいと願っています。

## 建学の精神で飛躍を目指す

学長

### 小原 奈津子

昭和女子大学は今年創立100周年を迎えます。第1次世界大戦後の荒廃したなかで平和で希望に満ちた世界をつくる女性を育成するために、学生8人、教師5人で「日本女子高等学院」の教育は始まりました。100年後

の今、大学は6学部14学科、大学院は2研究科11専攻からなり、約6000人の学生が学んでいます。「世の光となろう」の建学の精神は現在もお脈々と受け継がれていますが、時代の要請に応じて教育プログラムを進化させ、IoTやAIの急速な進歩に対応すべく、データサイエンス教育の準備を進めています。

大学では環境デザイン学科が環境デザイン学部として独立しました。また、大学院生活機構研究科では、主として社会人のキャリアアップや学びの深化を図るための1年制コースとして、福祉社会研究専攻に福祉共創マネジメントコースと消費者志向経営コース、生活文化研究専攻に1年制コースが開設されます。

昨年本学キャンパスに移転したテンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)への授業履修や留学も多くの学生がチャレンジしており、さら

に後期から国際学部のダブルディグリープログラムも始まります。TUJとの交流は、科目の共同開設や授業間交流に加え、世界各国の共同開設や授業間交流に加え、世界各国のランチメニューを共同作成したり(学生食堂ソフィアで提供)、英語サロン、日本語サロン等の各種交流イベントが活発に行われています。英語系・非英語系を問わず、学生はこの環境を活用して異文化を理解し、グローバルな視野を育ててほしいと思います。

また、創立100周年を記念して様々なイベントが企画されています。例えば、記念ソングやシンボルマーク、LINEのキャラクターが既につくられており、記念写真展、昭和女子大学の未来を考える会議や学内研究所の記念シンポジウム等が開催される予定です。

前期はコロナ感染拡大の緊急事態宣言に始まり、授業はオンラインで、構内にも立ち入り禁止となり、学生には忍耐と不安の日々であったと思いますが、見方を変えれば、世界や自分をとりまく環境、自分自身についてなど改めて深く考える好機でもあったと思います。

共にこの困難を乗り越え、実りある一年にするために残りの Semester を楽しみながら大いに学んでいただきたいと思います。

### —これからの時代を見据えて— 「コワーキングスペース」を開設

この秋、テンプル大学ジャパンキャンパスに隣接する本学10号館1階に、コワーキングスペースを新設する計画です。学生、教職員、研究員、社会人などが利用し、多様な職業や知識を持った人たちが出会い、交流・協働する場所を目指します。

エントランス近くのラウンジは、大きなカウンター、テーブル席、ソファが並ぶ落ち着いた雰囲気とします。奥はセミナーやグループ活動で使う教室とし、オンライン講義を配信するスタジオも設置する計画です。

企業や地域との協働プロジェクトで様々な実績を挙げています。これからは、渋谷に集まる起業家やITエンジニアとのコラボレーションが加わることを期待しています。

# 新しい教育の形へ

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、休校要請の中で一気にオンライン授業に転じました。コンピュータ事務室のサポートのもと、教員たちも研修を重ね、短期間で授業を切り替えました。学生の健康に配慮しつつ、通信環境整備を支援し、新しい教育の形を進化させる挑戦を続けています。

## 「withコロナ時代」の教育に挑戦

### ネットやツールの強みを活かす3タイプのオンライン授業を実施しています。

昭和女子大学では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度の授業は4月24日からオンラインで開講しました。

オンライン授業は次の3タイプがあります。さまざまなツールの強みを活かしながら、授業形式を組み合わせ、学修内容に応じて多様な形式で行っています。

**A▶ 双方向型**

Zoomなどを用いて双方向にやりとりするリアルタイム授業

オンラインのコミュニケーションツールZoomなどを用いたリアルタイムで行う授業です。途中で録画映像を視聴する場合もあります。チャットやアンケート機能、小グループに分かれてディスカッションをする機能などを活用し、対面の授業に近い、インタラクティブな授業です。

**B▶ 録画配信型**

事前に授業を録画して配信し教員がフィードバックを行う授業

事前に収録した講義の動画をYouTubeなどで配信します。学生からの質問・意見には教員がフィードバックを行い、課題提出をもって出席とみなします。開講曜日・時間・場所の制約なく受講できるのが利点です。必要に応じて繰り返し視聴して丁寧に学ぶことができます。

**C▶ 課題提出型**

ポータルサイトで授業の内容と課題を示し教員がフィードバックを行う授業

学生ポータルサイトUP SHOWAなどで授業内容を伝え、質問・意見を受け、課題の提出を求めます。次回以降の授業時に質問・意見への回答・解説や、課題へのフィードバックを行います。動画配信などに比べて、データの通信量が少なく、学生の通信環境への負荷を減らせる利点があります。

### オンラインへの切り替えに教員研修

#### 充実したファカルティ・ディベロップメント

昭和女子大学では、オンライン授業の質を向上させるために、様々なファカルティ・ディベロップメント(FD)を推進しています。

FD委員会を中心に、オンライン授業に関する講演や動画配信を通じて、学科を横断して教員同士で経験やノウハウを積極的に共有しています。

#### コンピュータ事務室によるバックアップ

コンピュータ事務室が全面的に教員の授業運営をサポートしています。Zoomの使



い方を説明するための体験会を開催するほか、ウェブサイトやアプリを使って授業を構築するための技術支援サイト「オンライン授業 マニュアルサイト」を整備しました。このサイトでは、学内ポータルサイトUP SHOWA、Zoom、Google Classroomといったオンラインツールの使い方や、受講する学生の通信量を軽減する「データダイエット」、セキュリティ対策まで幅広く情報を提供しています。

### 学生の声～オンライン授業を受けて

オンライン授業開始から3週間が経過した時点で、6161人の学生を対象にアンケート調査を行いました(回答率47.4%)。88%の学生はパソコンで受講していましたが、スマートフォンを使用している学生も8%いることがわかりました。

オンライン授業を受けるうえで懸念されることとして、「自宅の通信環境が不安定で、途中で通信が切れる」「ツールが複数あるため」といったオンラインツールの使い方や、受講する学生の通信量を軽減する「データダイエット」、セキュリティ対策まで幅広く情報を提供しています。



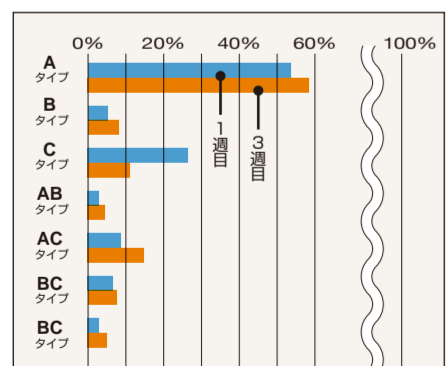
いなども挙がりました。

また、オンライン授業で科目ごとに課される課題の量は79%の学生が多いと感じています。一方、56%が2時間以上かけて課題に取り組み、86%は「全て期限内で提出している」と回答しました。

将来的な授業形態については、「オンラインを継続したい・してもよい」65%、「対面授業とオンライン授業を併用して行いたい」17%と、オンライン授業継続の意思があることがわかりました。

## 教員アンケート調査「双方向型が約6割に」

### 課題提出に手ごたえ オンライン授業のメリットも実感



前述の学生を対象にしたアンケートと同様に、オンライン授業の開始から3週間が経過した時点で592人の教員にもアンケート調査を実施しました(回答率72.4%)。その結果、オンライン授業形式において、当初4分の1を占めた課題提出型(Cタイプ)から双方向型(Aタイプ)への移行が進み、3週間経った時点で約6割が双方向型(A)の授業を実施していることがわかりました。

開講前に教員向けに複数回のZoom講習会を実施し、当初から双方向型(A)が54%と過半数を占めたが、26%が課題提出型(C)を選択していました。一方、3週目には課題提出型(C)が10%に減り、双方向型(A)が59%に増加、双方向型+課題提出型(AC)の混合が8%から15%に増えました。

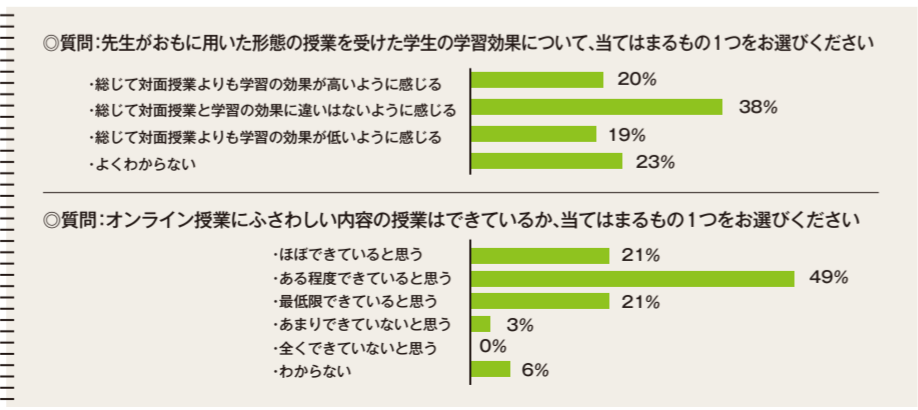
また、70%がオンライン授業にふさわしい内容の授業ができていると考えています。学習効果については、58%が対面授業と違いはないかそれ以上の学習効果が挙げていると感じる一方、対面授業より効果が低い19%、よくわからない23%と、まだ戸惑いも残ります。その中で特に学生の課題提出は効果があり、「ほぼ全員が課題を提出している」比率が85%に上りました。

オンライン化で授業の準備に要する時間が増えた教員が大半を占め、約半数の教員が、対面授業よりも週に8時間以上準備のための時間が増えたと答えています。負担が

非常に増えた36%、負担はある程度増えた52%と、負担感も少なくありません。

オンライン授業のメリットとしては、学生の「遅刻が少なく、出席率が高い」「私語がなく集中度が高い」「寝ない」「反応が早い」「提出物が対面より期限厳守で提出される」「ブレイクアウトセッションで熱心に話したい」に参加している」「PCスキルがあがる」などが挙げられました。

また、将来的な授業形態については、「オン



ラインを継続したい・してもよい」51%、「対面授業とオンライン授業を併用して行いたい」34%など、オンラインやハイブリッドへの支持がありました。

坂東眞理子理事長・総長は、「大学の場合、高校までと異なり学生によって受講する講座がばらばらなため、ハイブリッドにしても学生がキャンパスに登校することになり、悩ましい。今後、オンライン授業の良さをどう活かしていくかを検討していきたい」と受け止めています。

今回の調査結果を今後の授業改善に反映させていく考えです。

様々な学生支援策をご利用ください



#### 学生の健康維持のために

健康管理室はUP SHOWAで感染予防のための情報発信をしています。学生相談室からは「学生相談室たより」を発行し、ストレス対処の7つのコツを配信しました。



#### オンラインで図書館を活用

図書館では、図書館資料の貸出配送サービス、複写代行(郵送)サービス、来館利用(事前申請制)サービスを実施しました。このほか、新聞記事データベースや電子書籍が使用できます。



#### オンライン授業をサポート

コンピュータ事務室ではオンラインでZoomやUP SHOWA、Google Classroom等の利用方法についての情報発信やサポートを行なっています。

## オンライン授業の多彩な取り組み

昭和女子大学では、それぞれの教員が学生の不安や負担に寄り添うため、ネットの強みを活かし、学修内容に応じて様々なツールを使い分けながら意欲と質の維持に努めています。オンライン授業の事例を紹介します。

### 動画配信からリアルタイム配信へ

初等教育学科の鈴木円教授は、学生のオンライン講義受講環境がどの程度整っているか不透明なことから、当初は録画配信型(Bタイプ)を選択しました。しかし、アナリティクス機能を基に学生の視聴態度を調べたところ、スマートフォンやPCなど様々なデバイスで閲覧していることや、興味のあるところだけを見るといった傾向がわかりました。

これを受け、鈴木教授はZoomを用いた双方向型(Aタイプ)に移りました。投票機能や小グループの討論など、インタラクティブな講義ができるのが利点です。討論の際は特に1年生が人間関係を構築できるよう、ある程度固定のメンバーで行っています。この他、Zoomの参加状況のログを確認し、途中で通信が切断された学生には事後に個別でフォローをするなど、学生の学ぶ権利が奪われないよう配慮をしています。



## オンラインによる就活支援 キャリア支援センター

キャリア支援部・キャリア支援センターでは、例年であれば企業の説明会や採用・選考などが活発に行われているこの時期に、自宅からオンラインでしか就職活動ができない学生が安心して就職活動に向き合えるよう、オンライン支援体制を強化しています。

4月1日から学内の立ち入り禁止となりましたが、学生の相談に柔軟に対応できるように、キャリアカウンセラーと職員による個別面談を、前年度の1日42枠から56枠に拡大し、新たに直前相談枠を設けました。履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接などをオンラインにて行うことで不安や悩みを抱える学生を細やかに支援しています(写真)。

また、信頼できる社会人と学生が出会い、卒業後のキャリアプランやライフスタイルについて相談できる、本学独自の「社会人メンター制度」の各プログラムも5月下旬からオンラインにて開催しています。設けられたテーマに沿ってメンターと学生が懇話する「メンター

### さまざまなツールを駆使しオンラインの強みを活かす



歴史文化学科・松田忍准教授はOneNoteと液晶タブレットを活用して双方向型(Aタイプ)の授業を行なっています。

講義資料をタブレットに表示しながらOneNoteの描画機能で、リアルタイムで直接コメントなどを資料に書き込みます(写真)。教室での板書以上にスムーズです。

ユニークなのが、「顔出し担当」で、交代で学生数名がビデオオンにして授業に参加します。全員がビデオオンすると通信量が増えてしましますが、一部の学生に収めることで通信量を抑えつつ対面の授業同様に受講生の反応を見て講義の緩急をつけています。

この他、クイズやアンケート、チャットを活用して、受講生全員の理解度をチェックしながら授業を進めています。

### 格差がない学びを提供するために

ビジネスデザイン学科の前田純弘教授が担当する「メディア論B」では、受講環境によって格差が出ないように工夫しながら録画配信型(Bタイプ)、課題提出型(Cタイプ)混合の授業を行なっています。

前田教授は授業の初回でアンケート調査を実施し、履修する学生の受講環境を調べました。その結果、自宅にプリンターがない学生が一定数いることが判明しました。そこで、自宅にプリンターがない学生には全ての資料を郵送することにしました。また、A3サイズで閲覧することが望ましい資料については全員に郵送しています。

授業では、事前に録画した授業動画に加え、授業の音声ファイルも配信しています。音声ファイルは動画に比べてデータが軽量なため、学生が通信量を節約することができます。これに加え、講義の内容を音声入力を用いて文字起こししたテキストファイルも配信しています。

レポート等の課題は、UP SHOWAの入力フォームに、テキストを直接入力して提出します。学生が自分のデバイスにソフトウェアやアプリをインストールせず、ブラウザ上で取り組むことができます。

## シンポジウム 「コロナ非常時の就活」に注目

5月23日、昭和女子大学が主催して「コロナ非常時の就活」シンポジウムがZoomで開かれた。当初定員300人を予定していたが倍の参加希望が寄せられ、約500人がオンラインで参加した。昭和女子大学3、4年生を中心に、他大学の学生、大学教職員や企業の採用担当の方も多数参加した。

### 企業ごとに状況は違う

シンポジウムでは、企業の採用担当者の方からのお話を中心に進められた。

採用は例年に比べ約1か月遅れて進んでいるが、新型コロナウイルス感染拡大によって打撃を受けている企業、逆に業績を伸ばしている企業と、企業ごとに景気の影響も採用状況も変わってくる。自分の受けたい企業の状況を確認することが必要だ。

いたずらに不安になるのではなく、新型コロナウイルスがもたらす影響に対する不安と、一方でコロナとは関係なく、就職活動

### 学生体験談 実習ができない授業は今

昭和女子大学で前期がすべてオンライン授業となる中、教室での実習ができない授業がどのように行われているのか、心理学科の学生の立場からお伝えします。

まず、「心理学研究法」という授業では、面接法をテーマに、教室内で1対1の練習をするはずでした。この実習ができなくなった代わりに、面接で得られた資料から分析をする課題が出されました。前年までは取り組んでいなかった、より高度な分析法です。先生もこの課題を出すことに少し躊躇したそうですが、研究法の理解を促進するために取り入れたそうです。

次に、「データ解析」は、パソコン教室で「SPSS」というソフトを使いながら自動計算、処理を学ぶ授業です。しかし、パソコン教室も使用できないため、オンラインで先に先生が数値だけ示し、学生たちはどのように統計処理をすればいいか、説明できるようにするという内容に変更になりました。統計処理の理解を深め、授業の進度に支障がないように取り組みが行われています。

(記者:心理学科 五日市 萌)



ことなく、分けて考えることが大事という指摘があった。

### コロナ禍を逆に生かす

今回のコロナ禍で、臨機応変に今後の方針を示している企業となかなか対策を進められていない企業がはっきりわかれた。また、企業が社員に対しどう対応しているのかも見える。コロナ禍を前向きに捉え、企業公式Twitterやホームページ、各種就職情報サイトなどで情報を集めて、大学の制度を活用して、オンラインでやれることをやりきってきたい。

(記者:日本語日本文学科 石井 七海)

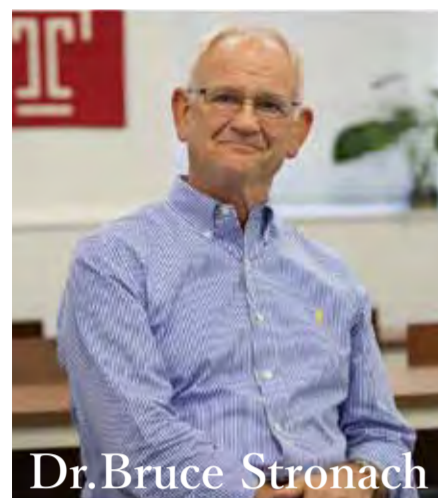






## コロナ禍における | オンライン国際交流 |

# 不測の事態に立ち向かうTUJ



Dr. Bruce Stronach

ブルース・ストロナク TUJ学長(6月現在)

### TUJとのプログラムを継続

TUJが2019年度に敷地内に移転してきました。新型コロナウイルス感染拡大を受けて、夏学期の「単位互換プログラム」はオンラインで実施し、9月からの秋学期では「単位互換制度」「ダブルディグリー・プログラム(国際学部対象)」が始まります。



# オンラインで新しい国際交流が始動

学科の講義や課外活動等でTUJの学生とグローバルに学ぶ機会が豊富にあります。

### コロナ禍における交流 事例① 全学生が参加できる 日本語・英語サロン

2019年9月にTUJが移転して以来、狂言や刀剣などの日本文化と一緒に学んだり、共同で利用する学生食堂で世界の食を紹介する「世界食堂」メニューと一緒に提案するなど、両大学間で様々な学生交流が行われてきました。コロナ禍で、両大学ともオンライン授業に移行して学生は登校禁止となり交流の場が失われました。両大学の学生グループが互いの学生のために企画した「日本語サロン」と「英語サロン」は、交流再開を目指して5月22日、Zoomで日本語サロンを試験的に実施しました。両大学から約20人ずつが参加、Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能を活用し、小人数グループに分かれて会話を楽

TUJ×SHOWA Women's University



しみ、オンラインならではの交流で盛り上がりました。この成功を受けて、6月5日の英語サロンから本格的に新しいオンラインでの学生交流をスタートしています。

### コロナ禍における交流 事例② 学生同士で議論深める オンラインシンポジウム 「逆境の中の希望を求めて (Comfort in Crisis)」

コロナウイルスにより全世界で一変した生活。この危機をどう乗り越えていけばいいのか、日米で意見交換するよう6月19日、学生グループによる合同シンポジウム「Comfort in Crisis—逆境の中の希望を求めて—」がZoomで開かれました。

主催したのは、昭和女子大学で英語サイト「Palette」(パレット)を運営するビジネスデザイン学科今井ゼミ有志学生と、TUJの英語媒体「Uprizine」(アップライジン)のメンバー。昨秋、TUJが移転してきたことをきっかけに、日米学生の合同シンポジウムを開き、今回で2回目です。

昨年度は対面で企画、開催しましたが、今回は企画もすべてオンラインでZoom meetingやLINEを通して練り上げました。

が懸念でした。緊急支援金給付やIT面での支援、学期間の寮費を無料とするなどのサポートを行いました。TUJの学生は日本人以外が60%でその大半は米国から直接入学した学生と米国本校を通じて来日する短期留学生です。米国本校は3月に短期留学生を帰国させましたが、その際TUJ直接入学の学生は選択を迫られ、多くの学生は日本にとどまることを選択。理由のひとつは、3月に本国に帰国してしまうと夏学期に日本に戻れないかもしれないからです。

5月末に始まった夏学期も引き続きオンライン授業を行っています。当初夏学期は学生の減員を予測していましたが、実際はその反対で1,000人を超す学部生が受講、通常より

50人以上多い人数です。問題は秋学期です。「制約のある」形、つまり卒業研究、芸術制作など、対面授業が不可欠なコースを除きオンライン授業を予定しています。現在、ピザ発行の再開時期が不透明なため学生数の見通しが立ちません。外国からの新入生が入国できなければ日本人学生の割合が通常より増えるかもしれません。また入国できない学生のうち、どの程度がオンライン授業を希望するかも未知数です。パンデミックが下火となる中、どの程度の学生がキャンパスに戻りたいのか、オンライン授業継続を望むのか、世界中の大学の共通の課題ですが、皆で不測の事態に備えておかなければならないのです。



今回のシンポジウムでは次の4つのトピックを話し合いました。

1. コロナ禍で拡大しつつある格差をどうするか。
  2. 自粛中だからこそ！ ネットリテラシーの重要性。
  3. コロナ禍に対する各国政府の対応。
  4. コロナウイルスが引き起こした対アジア人差別の広がりに—です。
- シンポジウムはPalette代表が日本語で、Uprizine代表が英語で司会を務め、英語が不

得意な学生も緊張せず気楽にフレンドリーに参加できる場を作り出してくれました。

### コロナ禍を グローバルな視点で考える

4つのトピックから自分が興味のある分野を選び、Zoomのブレイクアウトルームに分かれ、各グループで意見交換しました。

資料を用いながら現状を理解し、今後を考えていく対アジア人差別を考えるグループや、メディアを利用する際にどんなことに気をつけるかを、各国メディアの特徴を踏まえながら考えていくインターネットリテラシーグループなど、各グループで活発な議論が行われました。

多様な意見や考え方を吸収でき、大きな収穫になりました。今後も海外学生と共に語り合うイベントを企画していくそうです。

(記者: ビジネスデザイン学科 山田有瑠奈)

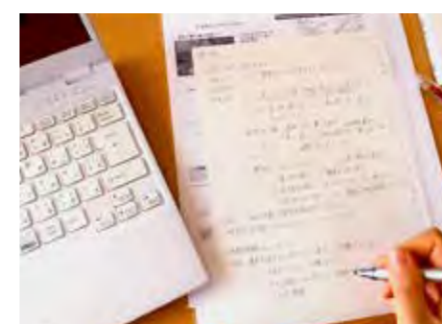
### TUJ)日米アカデミックフォーラムを共催

よりよい大学教育実現のために昭和女子大学とTUJは「日米アカデミックフォーラム」を共催しています。これまで、日本の高等教育の課題や学生・教育支援について議論しています。今年「オンライン教育」をテーマに、その心理的影響や日米の違いについてオンラインで議論します。今後、開催の詳細については本学ウェブサイトが発信していきます。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は世界中に感染が広がり、海外との行き来が止まりました。現実の往来に代わり、オンラインで交流し、グローバルな学びを止めない努力が続いています。

# 学びを止めるな — 昭和ボストン

留学プログラムに参加を予定していた学生を対象に、今秋より、本学の海外キャンパスである昭和ボストンとのオンライン授業を実施します。リアルタイム配信や動画配信を使い分けて実施していきます。さらに、オンラインで現地大学の学生と交流できる「昭和フレンドシップサークル」なども実施する方向で調整を進めています。



### 昭和ボストンに関する対応

新型コロナウイルス感染拡大を受け、昭和ボストンでの夏季短期研修プログラムを中止し、後期の留学プログラムをオンラインに変更しました。詳しくは国際交流センターまでお問い合わせください。

### 留学が延期になったキャンパスライフ

ビジネスデザイン学科は2年次前期に昭和ボストンに留学する予定でした。留学が3年次前期に延期になった今、どのような学校生活を送っているか、お伝えします。

#### 授業

3年次前期に履修する予定だった科目を2年次前期に先取りして受講しています。この科目は3、4年生と一緒に受講します。

授業はZoomでのオンライン授業。録画配信授業、課題提出授業の3種類があります。Wi-Fi環境に問題がある学生も参加できるよ

う録画が配信されたり、課題を提出したりすることで出席となります。授業資料はUPSHOWAという学生ポータルサイトからダウンロードして印刷でき、大学に行けない状況でも授業に励み、しっかり学修できています。

#### クラスルーム

本学ではクラスアドバイザー制を設けています。学科・学年ごとにクラスに分かれ、クラスアドバイザーの先生がいて、クラスルームが開かれます。私の場合はクラスルームが

2週間に1回程度行われます。先輩方の就職活動の話や、今勉強するべき資格の話を知ることができました。このような状況だからこそ自分から率先して行動することが大切なのだ分かりました。

#### 就職活動に関して

就職活動は主に3年生から始まりますが、留学延期により3年生向け就職ガイダンスを聞くことができました。留学延期が決定したときはとても残念でしたが、今、オンラインで充実した大学生活を送り、来年の留学に備えています。

(記者: ビジネスデザイン学科 井上 由菜)

# オンラインで広がる 学内交流の輪

昭和女子大学には海外から多くの学生が留学し、学内で国際交流をしています。コロナ禍でも留学生と交流する様々な機会を設けています。

### 離日した留学生 韓国からオンラインで受講

人間社会学部現代教養学科・シム チュンキャット准教授による「社会をみる目」は韓国から本来であれば留学にきていた学生もオンラインで参加しています。

この授業は、現代の人間社会を理解するうえで基本的な事項や争点について講義、議論するものです。

日本の就職活動の慣習について考える講義では、留学生が現地からオンラインで韓国での就職活動の実態や日本との違いについて他の受講生に説明しました。

### 留学生 国際交流サークルCHAWAで交流

昭和女子大学では、世界の協定校などから約100人の外国人留学生が学んでいます。日本人学生と留学生が親睦を図る国際交流グループ「CHAWA(茶輪)」では、国や学部、学



# 協定校—ワルシャワ大学との交流会—

### 認定留学 中止のお知らせ

協定校を中心とする後期認定留学は全て中止となります。一部協定校においては、オンライン授業等の代替策を検討しています。詳しくは国際交流センターまでお問い合わせください。

### 国際政治や文化、歴史など幅広く学ぶ現代教養学科 志摩 園子教授の国際関係論ゼミでは、協定校であるポーランドのワルシャワ大学日本語学科の学生と日本語でオンライン交流会を実施しました。学生がよりグローバルな視野を持ち、刺激を受けることが目的です。

昭和女子大学の3・4年14人、ワルシャワ大学からは学部2年から修士1年までの13人、教員1人が参加しました。

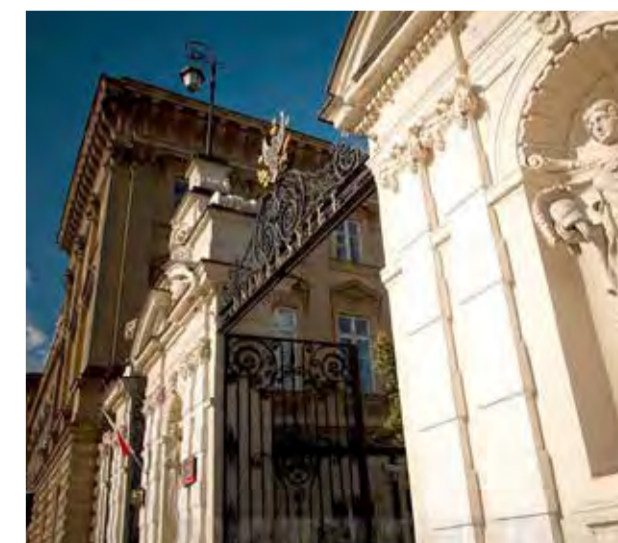
### コロナ禍での 互いの暮らしを知る

交流会では、外出自粛やオンライン授業をおこなう中で、どのような生活を送っているか互いに情報や意見を交換しました。日常的なテーマをカジュアルに語り合い、互いの文化・背景、大学での学びに対する意識の違いを気付くことができました。参加したワルシャワ大学の学生は日本に関心があり、参加学生の研究対象の神道や漫画等について話

し合う場面もあり、海外の学生の視点から日本の文化を知ること、日本人である自分たちも見落としていた日本の文化を改めて考えるきっかけになったといえます。

### 「伝えたい」「知りたい」という気持ちが大変

研究室の学生はそれぞれ、ワルシャワ大学の学生に紹介したいことをすすんで準備し、



自粛下の暮らしを説明しました。このことについて、志摩教授は「語学力に自信がなくてもよい。伝えたいことや知りたいことをもって交流することが大事」と話しています。